

Ⅱ 特別シリーズⅡ

科学技術 振興機構 『さくらサイエンスプラン』 友情と感激

第146回

静岡大学の活動報告



早川泰弘 (静岡大学電子工学 研究所教授)

インドSRM大学から院生等 名を招聘、研究交流の推進拡大11

静岡大学とインド国スリ・ラマサミー・メモリアル大学(SRM大学)は大学間協定と博士ダブルデグリー協定を締結しています。両大学の教員、研究者、学生の交流をさらに促進するために、平成27年度から平成29年度に引き続き、平成30年7月22日(日)から7月29日(日)の8日間、さくらサイエンスプランを利用して学生10名(学部生3名、博士7名)とジャヤラム・アーチャナ先生を招へいしました。



ナノ評価センター見学

7月22日正午に一行は静岡大学浜松キャンパスに到着、オリエンテーションを行い、翌7月23日はJST国際連携アドバイザー(前インド代表)の西川裕治氏に静岡大学を訪問していただき、来日したインド人11名および静岡大学に在籍しているインド人10名と直接懇談をした後、一緒にナノデバイス評価センターを見学しました。午後は鈴木・協合研究室でセラミックナノ材料合成技術と測定装置の説明を受け、博士課程学生の公聴会見学を行いました。

7月24日(火)は猪川研究室で表面プラズモンアンテナに関する研究成果の紹介と装置見学、高柳記念未来技術創造館見学研究交流センターのライオン先生から静岡大学の国際交流活動について説明、井上研究室でカーボンナノ結晶合成について説明を受けました。7月27日(金)は立岡研究室でシリサイドナノワイヤ材料、川田工学部長から工学部の活動内容の紹介やバイオイメージング測定について紹介を受けました。原創造技術大学院長(博士課程)から博士課程の紹介と窒化ガリウム系ナノ結晶合成について、国際交流センターのライオン先生から静岡大学の国際交流活動について説明、井上研究室でカーボンナノ結晶合成について説明を受けました。7月28日(土)は、早川・志村研究室で半導体結晶成長に関する宇宙実験や太陽電池、光触媒、熱電、バイオイメージング材料合成に関する説明を受け、報告書を作成しました。

Table with 2 columns: Day (1-8) and Program details including arrival, visits to Nano Evaluation Center, research labs, workshops, and departures.

●学生ワークショップで研究発表

7月25日(水)は学生ワークショップを開催しました。SRM大学学生10名と静岡大学学生13名の計23名が研究発表を行いました。研究内容は、太陽電池、熱電材料、非線形光学材料、ガスセンサー、燃料電池、触媒、バイオイメージングなどに関するもので、学生たちと教員による活発な意見討論が行われました。

7月26日(木)は竜ヶ岩洞の鍾乳洞見学、NHK大河ドラマで放映した「女城主景虎」ゆかりの寺、方広寺を見学し、歴史の一旦に触れました。午後は、スズキ歴史館を訪問し、自動二輪や自動車開発の歴史や生産方法を学びました。

7月27日(金)は立岡研究室でシリサイドナノワイヤ材料、川田工学部長から工学部の活動内容の紹介やバイオイメージング測定について紹介を受けました。原創造技術大学院長(博士課程)から博士課程の紹介と窒化ガリウム系ナノ結晶合成について、国際交流センターのライオン先生から静岡大学の国際交流活動について説明、井上研究室でカーボンナノ結晶合成について説明を受けました。

7月28日(土)は、早川・志村研究室で半導体結晶成長に関する宇宙実験や太陽電池、光触媒、熱電、バイオイメージング材料合成に関する説明を受け、報告書を作成しました。



学生ワークショップ



JST西川国際連携アドバイザーによる説明



研究室訪問②

今回の訪問は彼らの今後に大きく良い影響を与えるでしょう。また、国際連携についてJSTの方と話し合ったことは、学生たちの今後の可能性について考えるきっかけを与えられました。それによりインドの学生が静岡大学への留学を考えることにつながりました。



研究室訪問①

研究室の学生が研究用機器や計測器を見せたりしてくれました。それにより学生たちは研究室で行われているリサーチやそのコンセプトを理解することができました。

●多くの研究室を訪問し、質疑応答

以上のように、今年度も多くの研究室を訪問し、直接、教員から研究内容の説明を受け、質疑応答をしました。さらに学生によるワークショップで両大学の学生による活発な討論を行い、引率者として来日されたアーチャナ先生や学生からもたいへん好評でした。

《さくらサイエンスプランの効果》

来日した学生の中には10月から研究交流生

として静岡大学に滞在する学生4名もおり、来年、静岡大学の博士課程に入学したいとの希望を持つ学生もおりました。来日した学生にとつてたいへん有効な経験になったと思います。さくらサイエンスプランの支援をいただき、学生交流の他に国際共同研究もさらに促進できると考えられます。

《ジャヤラム・アーチャナ先生の感想》

さくらサイエンスプランは日本を訪問したいと考える外国人の学生にとつて、とてもい

いプログラムだと考えます。学生たちは日本の文化や生活環境を知るのみでなく、

研究室を訪問し、教授たちはご自身の研

究について説明したり、研

究室の学生が

研究用機器や

計測器を見せ

たりしてくれ

ました。それ

により学生た

ちは研究室で

行われている

リサーチやそ

のコンセプト

を理解するこ

とができます

た。